

[年度] 平成 27 年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] カンキツ新品種の育成および県オリジナル品種の特性

[担当機関名] 果樹試験場 栽培部

[連絡先] 0737-52-4320

[専門分野] 果樹

[分類] 普及

[背景・ねらい]

近年の気象変動などの影響によりカンキツの高品質安定生産が困難な中、有望な中晩生カンキツ（以下「中晩柑」）や浮皮の少ない晩生温州ミカンの品種育成に取り組みました。また、平成 26 年に品種登録された‘きゅうき’については、現地調査の実施により、詳しい栽培特性を把握しました。さらに、平成 24 年に品種登録された‘YN26’については、苗木解体調査により生育特性を把握しました。

[研究の成果]

1. ‘清見’に‘中野3号ポンカン’を交配し選抜した‘和果試交雑第1号’は、1月に収穫可能な中晩柑で、果実は扁平で浮皮は少なく、果皮は鮮橙色です。また、果肉の食感がさくさくしているのが特徴です（図1、表1）。

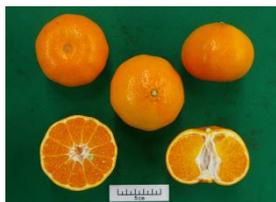


図1 ‘和果試交雑第1号’の果実

表1 ‘和果試交雑第1号’と対照品種の果実品質(平成28年1月)

品種・系統名	横径 (mm)	果実重 (g)	浮皮度	糖度 (Brix)	クエン酸含有率 (%)
和果試交雑第1号	79.4	203	0	12.9	1.12
和果試交雑第1号(二代目)	77.7	189	0.1	13.6	1.19
清見	83.3	250	0	11.0	1.42
中野3号ポンカン	72.3	155	0.5	13.9	0.86
はるみ	87.1	254	0.3	13.0	0.87

※「浮皮度」は0(無)~3(甚)の4段階で調査した平均値

2. 現地に枝変わりの情報提供を呼びかけ、選抜した‘18-2’は、尾張系の一樹変異個体で、12月に収穫可能な晩生温州ミカンです。本系統は連年結実性で、樹はややわい性、果実の浮皮は少なくやや小玉傾向です（図2、3）。



図2 左から‘18-2’、‘林’、‘尾張系’、‘大津4号’の果実断面

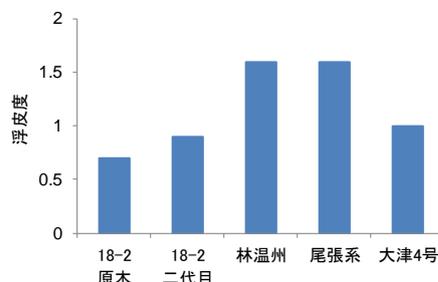


図3 ‘18-2’と対照品種の浮皮度(平成27年12月)

3. 中生温州ミカン‘きゅうき’は、育成地（有田市宮原町）と異なる園地条件であっても、中生の主力品種‘向山温州’より浮皮程度が小さいです（図4、5）。



図4 ‘きゆうき’と‘向山温州’の
果実比較(平成 27 年 12 月、湯浅町田)

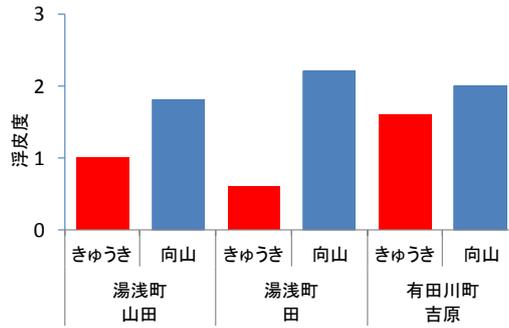


図5 各調査園地における‘きゆうき’と
‘向山温州’の浮皮度(平成 27 年 12 月)

4. 極早生温州ミカン‘YN26’は、親品種である‘ゆら早生’と比較して、根の量が多く樹冠の拡大が早いです(図6、7)。

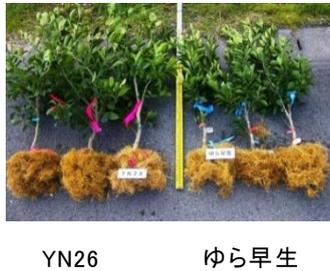


図6 ‘YN26’と‘ゆら早生’3年生苗木
(平成 26 年 1 月)

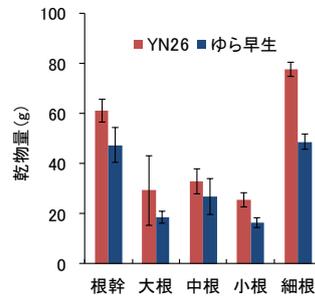


図7 ‘YN26’と‘ゆら早生’の根の乾物重
(バーは標準偏差を示す。)

[成果のポイントと活用]

1. ‘和果試交雑第1号’は1月に収穫可能な中晩柑です。今後も調査を継続し、平成 28 年度中に品種登録出願予定です。
2. ‘18-2’は浮皮が少なくややわい性の晩生ミカンである。今後も調査を継続し、品種登録出願に向けたデータ収集を行います。
3. 有田郡内の3園地では、‘きゆうき’は‘向山温州’と比較して浮皮が少ない傾向で、果実品質は同程度です。「きゆうきの基本特性に関する資料」を作成し、果樹試験場ホームページに掲載しています。
4. ‘YN26’の特性を示した「温州ミカン新品種‘YN26’の品種特性と栽培上の注意点」を作成し、果樹試験場ホームページに掲載しています。

[その他]

予算区分：県単（農林水産業競争力アップ技術開発事業） 研究期間：平成 25～27 年
 研究担当者：田嶋皓・水上徹・古田貴裕・中地克之・山田芳裕
 発表論文等：なし
 ホームページ掲載の可否：可